

EPO中部が開設してから12年が経ちました。
この間に、中部7県の地域課題解決に協働で取り組む様々な活動、人々に出会いました。

『地域はがんばっている、みんなで頑張っている』

この一言がすべてを伝えます。しかし、地域を「持続可能にする」ことは、簡単ではありません。
行政の参加、地域住民の理解、活動を実施する組織の維持、スタッフのスキルアップ、そして資金の調達…。
地域でお金がまわるような、地域の人々がずっと暮らしていけるような、しくみをつくらなければならない。
しかし、そのシナリオが明らかではないため、迷いながら、熱く議論を交わしながら、
時には関係性の危機を招くような事態に向き合いながら、
「地域が強くなっていく」プロセスを「みんなで」つくりあげなければ先に進まない。
過去5年、短い期間だけれど、EPO中部が寄り添った協働取組からそのヒントを探ります。



主なプログラム(予定)

- 1日目／10月13日(金) 18:30～20:00
座談会「地域と協働を語りあう～7つのものがたり」
- 2日目／10月14日(土) 10:00～16:00
10:00～12:00 プレゼンテーション「がんばる7つの地域の紹介」
～地域はどう変わったか～
13:00～14:30 プレゼンテーション「がんばる地域をつなぐ」
～協働をコーディネートする～
14:30～15:30 円卓会議「支えあう関係性をどうつくるか」
&フロアセッション
15:30～16:00 ふりかえり・閉会

参加申込書 FAX 052-218-8606 E-mail office@epo-chubu.jp

氏名(ふりがな)	所属(ふりがな)	部署・役職
<hr/>		
<hr/>		
ご住所		ご連絡先
<hr/>		TEL
<hr/>		FAX
<hr/>		E-mail
参加希望日	主催者への質問等	
<input type="checkbox"/> 10月13日(金)	<hr/>	
<input type="checkbox"/> 10月14日(土) 午前	<hr/>	
<input type="checkbox"/> 10月14日(土) 午後	<hr/>	

個人に関する情報は、本講座開催の目的以外には使用いたしません。



マルチステークホルダーダイアログ 2017

がんばっている
地域
にであう

2017年
10月13日(金) | 10月14日(土)
18:30～20:00 | 10:00～16:00
ウインクあいち会議室1202

(名古屋市中村区名駅4-4-38)

対 象: 持続可能な地域づくりに関心のある方、団体など
定 員: 60名程度(事前申し込み制)
主 催: 環境省中部環境パートナーシップオフィス

【交通アクセス】
名古屋駅桜通口から
ミッドランドスクエア方面 徒歩5分



申し込み方法 裏面の参加申込書をFAXもしくはEmailにて送付ください。
※定員を超えた場合、お断りをする場合がございます。ご了承ください。

申込締切: 2017年10月10日(火)

申込み/問い合わせ先 環境省中部環境パートナーシップオフィス
〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F
TEL 052-218-8605 FAX 052-218-8606
E-mail office@epo-chubu.jp

2013年から環境省は「地域の活性化」をキーワードに、協働による環境取組を進める支援事業を始めました。EPO中部は、5年間で7団体(9取組)の伴走支援を行いました。

協働取組5年間の軌跡と地域の未来

協働取組に関わって気づきました。「つなぐ人」が必要なこと。EPO中部では、「協働コーディネーター」と名づけ、協働による取組を展開する際に必要なものをつなぐ人を育む事業を2015年から3年間実施しています。

富山県氷見市／2013

里山と海を結ぶ「ひみ森の番屋」 地域内エネルギー循環事業 越の国自然エネルギー推進協議会

氷見の森と海をつなぎ、地域が豊かになるエネルギーと経済の循環を生み出したい。そんな志で始まったプロジェクト。調査活動や間伐作業や森林整備、親子エコツアー、地域への説明会を実施しました。2014年にNPO法人「ひみ森の番屋」を設立。氷見市上田地区で地域との関係性を育む森林活動を続けています。



長野県筑北村／2016・2017

筑北村東条地区における 里山交流計画 林福連携による里山の新たな活かし方 森も人も健康に 筑北村 福祉の森プロジェクト 株式会社柳沢林業

「わしの目の黒いうちになんとかしたい」。昔は桑畑やキノコ狩り、白菜栽培等がされていた筑北村高畑の里山。放置されたこの山をなんとかしたい。地元の山林所有者、社会福祉協議会、NPO法人、役場等が連携をし、福祉分野との連携による活動を生みだしています。次なる課題は実施団体の組織化…です。



福井県高浜町／2014・2015

ブルーフラッグ認証取得活動を通じた 海岸維持管理体制の再構築 一般社団法人若狭高浜観光協会

高浜の海岸線に広がる美しい砂浜。この砂浜を地域の共有財産として、この砂浜から未来のまちのありかたを「町に暮らすみんな」で考えようと始まったプロジェクトです。観光客の減少や高齢化により砂浜の管理がままならぬ状態になり、環境と経済、町の活力が課題となっていました。しかし2016年若狭和田ビーチは、アジアで初めてブルーフラッグを取得しました。



愛知県名古屋市中区／2014・2015

リユースびんを活用し循環型社会を構築する 「めぐる」プロジェクト リユースびん普及を通じた 地産地消ビジネスモデル 構築プロジェクト 特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会

地球の限りある資源を日々使っている私達。3Rの大切さには気づいているけど、リサイクルはしているけれど、「リユース」はなかなかできていません。昔、びんは何度も洗って利用されていました。そんな「リユース文化」を醸成しようと、米づくり、酒づくり、びんづめ、回収をつなぐ「めぐる」が誕生しました。名古屋市の施策にも反映されました。



三重県四日市市／2016

地域循環型社会づくり 「伊勢竹鶏物語 ～3Rプロジェクト～」Part2 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会

荒れた竹林から伐採した竹粉を活用した有機農業による農作物のブランド化を実現するモデル事業。竹林伐採・整備をする団体、農業生産者、消費者をつなぎ、地域資源の循環システム構築を目指しています。さらにはESD教材にも。本プロジェクトは実証試験として位置付けられ、さらにパワーアップし継続されています。



長野県飯田市／2013

みんなの環境学習講座 NPO法人南信州おひさま進歩

公民館活動が活発な飯田市。このプロジェクトでは公民館とNPOとのコラボ活動を生み出しました。各地区の公民館のニーズを踏まえての講座の企画、実施をする中で、地域づくりを担う住民を育みました。さらに、防災分野の活動へと広がり、地域の独自性を活かした住民自治、新たな協働による公民館活動が生まれつつあります。



協働コーディネーターによる研究会

当事者同士だと言にくい、当事者であるために見えていない、資金がほしいけれどどうしたらいいかわからない…。そんなとき、そっと伴走し新たな方法や情報を提供するコーディネーターがいたらもっと課題解決が早まるかもしれない。そんな思いで始めました。現在中部7県各県3名の個性あふれる「EPO中部協働コーディネーター」が存在します。

第2期 協働コーディネーター

- 【富山】 中川 透 (越の国自然エネルギー推進協議会)
- 【石川】 太田 殖之 (一般社団法人能登定住・交流機構／榛ぶなの森)
- 【福井】 日和 佳政 (越前市産業環境部農政課コウノトリ共生室／水辺と生き物を守る農家と市民の会)
- 【長野】 山室 秀俊 (長野県NPOセンター／長野市市民協働サポートセンター)
- 【岐阜】 河合 良太 (NPO法人泉京・垂井)
- 【愛知】 坂本 竜児 (NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム)
- 【三重】 川北 輝 (NPOみえネットワークセンター)

第1期 協働コーディネーター

- 【富山】 茶木 勝 (株式会社 ティー・ツリー・コミュニケーションズ)
- 【石川】 中里 茂 (環境省 環境カウンセラー)
- 【福井】 関岡 裕明 (株式会社 BO-GA)
- 【長野】 丸山 寛典 (株式会社 ミールケア)
- 【岐阜】 野村 典博 (NPO法人 森と水辺の技術研究会)
- 【愛知】 蒲 和宏 (なごや環境大学 実行委員会)
- 【三重】 寺田 卓二 (環境教育 ネクストステップ研究会)

第3期 協働コーディネーター

- 【富山】 境 勇人 (公立大学法人富山県立大学地域協働支援室)
- 【石川】 芝垣 圭太 (のと共栄信用金庫ふるさと支援室)
- 【福井】 中島 阿児 (NPO法人若狭くらしに水舎／NPO法人WACおぼま)
- 【長野】 山田 勇 (NPO法人えんのわ／NPO法人わおん)
- 【岐阜】 藤原 郁馬 (株式会社スピリット／NPO法人活エネルギーアカデミー)
- 【愛知】 久保 匠 (NPO法人地域福祉サポートちた)
- 【三重】 織田 拓 (神去村青年団)

敬称略

長野県松本市／2013

いきものみつけファーム 地域循環をつくる 体験農園 いきものみつけファーム in松本推進協議会

米ぬかを使った循環型農業に取り組み、田んぼや畑にいるいきものを見つねながら、農業体験を行っています。土、水、作物、虫、人に安心、安全な農業から、地域の環境保全や経済活動を生み出します。公民館との連携や、米食文化、消費・流通・経済などの学習会など、多角的な活動を展開しています。



マルチステークホルダー2017 持続可能な地域への語りあい… 行政、企業、市民へのメッセージ

それぞれの地域特色をいかし、多様なステークホルダーが参画するユニークな取組でした。その後、どのように発展し活動が継続されているのか、現状の課題や次なる目標は何なのか、それぞれの「持続可能な地域づくり」ストーリーを聞きあい、学びあい、スキルや方策をわかちあう時間を持ちます。また、協働コーディネーターの生の現場の声による、「行政に、企業に、市民に、持続可能な地域をつくりだすための対話の場」をつくります。